

令和7年度空家現況調査結果について

【資料No.4-1】



○空家現況調査の概要

調査方法：令和2年度以降の住民異動、建物滅失データを集計し、事前に空家を推定⇒地元集落等への聞き取りにより特定⇒特定した空家の外観を評価（A 入居可、B 要修繕、C 入居不可、D 崩壊の恐れあり、E 現地確認不可）

調査期間：令和7年6月～12月

調査対象：住宅、店舗兼住宅、長屋・共同住宅など、居住を目的とした建物で、居住または使用がされていないことが常態である建物

空き家戸数の推移



○空家戸数集計結果

R2空家戸数(公表数)	4,806
-------------	-------



異動による 空家増減 (R2～R7)	増加要因		減少要因	
	転出	302	転入	151
	転居(出)	332	転居(入)	230
	死亡	904	解体(倒壊含む)	336
	長期不在	150	開業等	66
	計	1,688	計	783



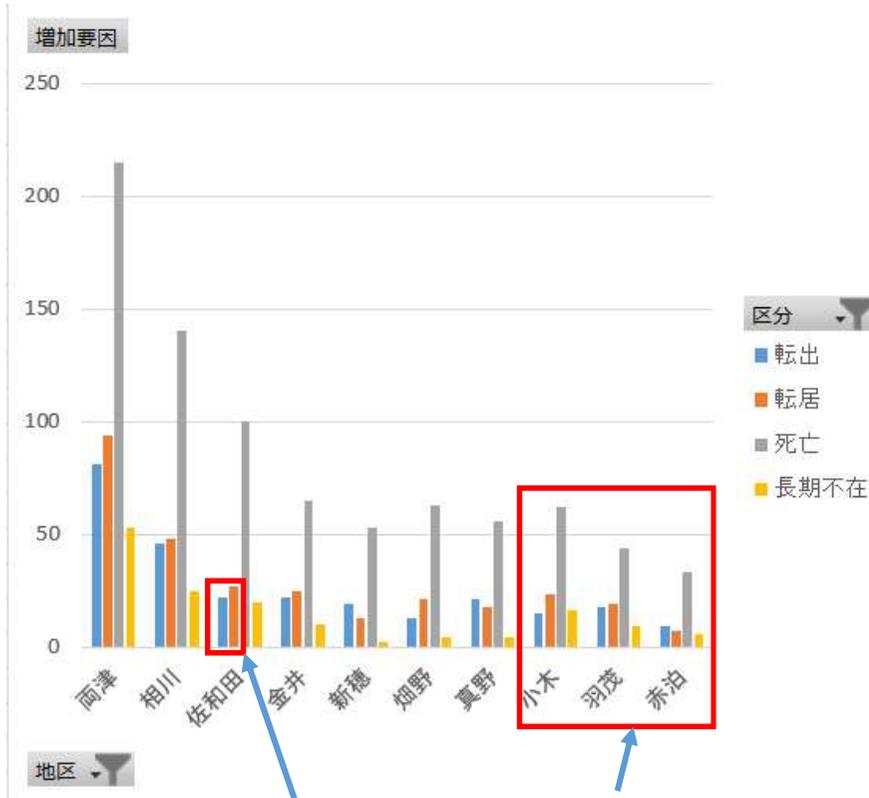
R7空家戸数	5,711
--------	-------

地区別空家戸数

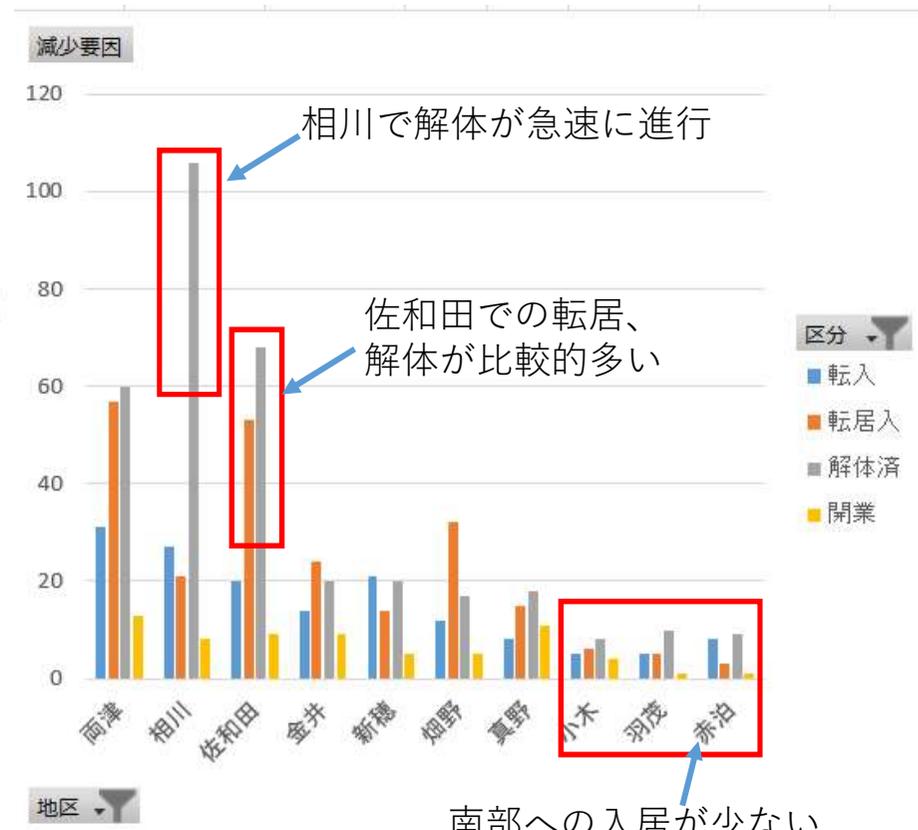
地区	空家戸数	前回比	増加率
両津	1,364	+371	+27.2%
相川	1,251	+110	+8.8%
佐和田	694	+6	+0.9%
金井	417	+71	+17.0%
新穂	365	+37	+10.1%
畑野	491	+50	+10.2%
真野	362	+52	+14.4%
小木	288	+103	+35.8%
羽茂	228	+78	+34.2%
赤泊	251	+27	+10.8%
合計	5,711	+905	+15.8%

令和7年度空家現況調査結果について 【資料No.4-2】

○地区別増減要因内訳



佐和田の転出転居が相対的に少ない
南部の空家発生件数が相対的に多い



南部への入居が少ない

令和7年度空家現況調査結果について

【資料No.4-3】

○外観評価別内訳

調査年度	R 2 年度		R 7 年度		
	戸数	割合	戸数	割合	
建物評価					
A (入居可)	2,650 戸	55.14%	1,607 戸	28.14%	減少傾向
B (修繕等で入居可)	1,384 戸	28.80%	2,116 戸	37.05%	増加傾向
C (入居不可)	595 戸	12.38%	1,536 戸	26.90%	
D (倒壊の恐れあり)	161 戸	3.35%	243 戸	4.25%	
E (現地確認不可)	16 戸	0.33%	209 戸	3.66%	
計	4,806 戸	100.00%	5,711 戸	100.00%	

○外観評価地区別内訳

